

病理専門医制度運営委員会だより (第 2 号)

病理専門医資格更新に関する重要なお知らせ：

病理専門医の皆様には、本年 4 月初旬に郵送で病理専門医資格更新基準の変更についての案内が送られておりますので、熟読の上、内容のご理解をいただきたいと思ひます。

昨年、日本専門医機構（以下機構と略）が発足し、病理学会も基本的診療領域（いわゆる一階部分）の一翼を担うことになりました。2014 年 8 月から機構と病理学会の専門医認定準備ワーキンググループの間で数回にわたるヒアリングが行なわれ、2014 年 11 月の病理学会総会（沖縄）で途中経過などの報告をし、前号の病理専門医制度運営委員会だよりでもその一部を報告してまいりましたが、最終的な病理専門医（機構の文書では病理領域専門医）更新基準が 2015 年 3 月 16 日に確定しました。今回皆様にお送りしました文書一式は、確定しました新しい病理専門医資格更新基準です。本年度よりこの基準で資格更新の審査を行うこととなります。特に、本年度（2015 年秋）に更新を迎える先生方は、新しい基準の内容をよくご理解の上で更新の手続きをしていただきたいと思ひます。

お届けしました資料は A から E まで 5 つあり、資料 A は新しい病理専門医資格更新基準、資料 B は提出書類となっています。資料 C には年度別専門医資格更新予定者一覧がありますので、ご自身の更新年の確認をお願いします。更新基準の詳細は資料 E に記載されていますので、こちらもご確認をお願いします。

【重要なお知らせ】 更新様式の一部訂正について：

日本専門医機構より 4 月 9 日付で更新様式について一部訂正の連絡がありました。

訂正箇所：更新様式（資料 B）4 頁、(様式 1-3) 単位集計表、ii) 専門医共通講習、a. 必修講習 の項

(誤) 各 1 単位必須合計 3 単位まで

(正) 各 1 単位以上必須

必修 3 項目をそれぞれ 1 単位上含めば、重複して受講しても構わないという意味になります。

※会員専用ページには更新様式の訂正版を掲載済みです。

更新書式をはじめ、今回の更新基準や更新に関わるお知らせは会員専用ホームページに掲載しており、今後も随時更新予定でございますのでご確認よろしくお願ひいたします。

病理専門医研修施設と研修プログラムについて：

現状の病理学会の研修施設は認定施設（A, B, S）と登録施設に分類されていますが、今後基幹施設と連携施設に変更される予定です。2015 年 4 月より初期臨床研修を開始した医師は 2017 年 4 月に新しい専門医研修プログラムに乗って各領域の専門医を目指すことになっています。新しいプログラムは原則

的に基幹施設を中心として、連携施設との間をローテートする方針が示されています。従いまして、今後は各施設単独でいわゆる後期研修医（機構では専攻医と呼びます）を採用するのではなく、プログラムで専攻医を採用することになります。

2017 年 4 月に開始されるプログラムですので、研修医には内容を事前に公開する必要があります。現時点では 2016 年の遅くとも夏ごろまでにはプログラム公開がされる予定となっています。基幹施設の基準や総数などは、今後機構とのヒアリングで詰めていくこととなりますので、本欄や病理学会 HP、また総会における報告事項から情報を得ていただきたいと思ひます。

今後の日程について：

・平成 27 年度病理専門医試験は、平成 27 年 8 月 1-2 日に東邦大学で行われます。

・平成 27 年度細胞診講習会は、平成 28 年 2 月 13 日に大阪市立大学で開催されます。

(文責：黒田誠・北川昌伸・清水道生・村田哲也)

==特集=====

アメリカザリガニと沢ガニを飼育して

市立札幌病院病理診断科 柳内 充

アメリカザリガニと沢ガニを飼育しています（正確に言うとザリガニは飼育していません）。いずれも偶然の賜物です。

アメリカザリガニは小学校で全員が飼育するように配られたものです。飼育セットを買い、学校で春から秋程度まで観察していたようです。学校のカリキュラムが終わると「あとはご家庭で自由にしてください」との通知とともに我が家にやってきました。「あとはご家庭で」といわれても困ってしまいます。かといってその場で殺してゴミ箱というのも子供の手前難しい。その辺の水辺に放ってみるかと考えて調べましたらアメリカザリガニは要注意外来生物に指定されており、陸水生態系に影響を与えると記載があります。そんな面倒なものを学校で都合の良い時間だけ飼育させて「生態系や命の大切さを学ぶ」などと、よくも言えたものだと思ひながら、困惑しながら飼育を始めました。飼育と言っても 1 日 1 回程度えさをやり、1 週間に一度水を取り替える程度です。水の交換は全部家人がしていたので私が飼育していたとすらいえません。ほとんどは隅に隠れて見えず、たまにカサカサと動く音が聞こえる程度でした。夜に動く音が聞こえるとゴキブリかとドッキリします。3 回脱皮した後ご臨終となり、環境破壊をせずに済みました。子供からは死因の究明を依頼されましたが、承諾書の印鑑が無いため解剖には到りませんでした。

沢ガニは近所のスーパーで 1 カップに 20~30 匹程度入って

500 円、という値段で売られていた食用の沢ガニです。沢ガニをそのまま揚げて食べようという目論見で家人が飼ってきて、揚げるまでの間水槽にに入れて自由にさせていたそうです。夕食の時間になりそこから数匹取り出しては揚げ、食卓に並んでいく、という一連の流れをみていた子供らが号泣してしまいました。アメリカザリガニなんかよりよっぽど命の大切さを教えているし、中途半端な宣伝活動としての食育よりよほど実践的な食育と思い、命の大切さについて説明しましたが、最初に「うまい」と叫んだあとに言っても説得力がなく、結局最後に残ったカニがそのまま食用から飼育用となりました。

このカニは命の大切さ、カニの生態系を教えてくれるほかに、経済学をも教えてくれることとなりました。後日近くの DIY センターでペットコーナーを覗いてみますと、なんと飼育用の沢ガニが一匹 500 円で売られていたのです。子供は「食べなければ $20 \times 500 = 10,000$ 円だった」と計算しています。最初は死んじゃったとか、生きてそのまま揚げるなんてと命に関わることで泣いていたのに日が経つと金勘定かと突っ込みを入れたくなりました（が店のたぐさんの人の手前やめました）。いずれにせよ子供の教育の一端にはなったようです。もう数年経ちますがカニは元気に動いています。最近子供が顕微鏡でみることに興味を持ちだしており、このカニは事前に解剖の承諾書を得る必要があるかもしれません。

カメの時間とその重み

北海道大学大学院医学研究科分子病理 大塚 紀幸



例年であれば、「とっち」が甲羅を鳴らして歩く音の高鳴りに春を感じるのであるが、今冬、彼の活動レベルが低下することは終ぞなかった。外丸准教授をはじめとするカメ好き教室員が世話を焼くものだから、眠気が吹き飛んでしまったものと思われる。

冬眠の質がカメの寿命に関与するとの一説もあるようで、一部では心配の声もあがっている。

とっちはクサガメのオスで、年齢 13、4 ほどと推察される。つまり、就任して 11 年になる教授を上回り、とっちが講座における陰の主であることは自明である。彼は 13 年程前、相棒のミドリ（ミシシippia アカミミガメ）とともに研究室にやってきたのであるが、相棒に先立たれ、独り身になって早 10 年。今ではすっかり研究室のアイドルとしての位置を独占している。飼育箱から開放されて自由に闊歩できる散歩時間をこの上なく楽しみにしているようで、教室員の後について歩きまわり、呼ぶ声に反応して走り寄ってきたりもする。そして、彼を寵愛している外丸准教授の手の中にあつて、頭を撫でてもらいたそう

に無防備にも首を長く伸ばし、うっとり目を閉じる姿が見受けられる。

私は正直、これまでカメという生物がいわゆるペットとなり得るということを全く想像したことがなかった。小学生の頃、家の近くの水田脇の水路に隠れるカメを捕まえてきて数ヶ月飼育した経験があるが、このようにコミュニケーションを構築する対象では決してなく、十分な観察のち自然に返したものである。

研究室の皆（ごく一握りの爬虫類アレルギー患者を除いて）に愛され、今日もしたり顔で研究室を散歩しているが、そんな彼が気づいていないであろう事実がある。この研究室の一角には、日々の研究のためにその尊い命を捧げているマウスがいるのだ。当教室の研究テーマの一つであるプロテアソーム遺伝子改変動物は、老化の良いモデルとして臓器横断的な解析が進められている。通常、マウスの寿命は 2 年余りとされているが、研究のために遺伝子を改変されたマウス達の寿命は我々の手に握られている。我々はそんな彼らに感謝しながら研究を進めている。

一方、カメの寿命は一般的に 30 余年とされており、彼にはあと 20 年の余命が想定される。今この講座に在籍する者のうち、この研究室でとっちの最期を看取る者は少ないであろう。20 年とはそういう時間である。日々研究と教育、病理診断の時間に追われ、研究テーマや人が変化していく病理学教室にあつて、彼は変わらない時間が経過していることを思い出させてくれる存在である。そして、研究のために命を使わせていただくことが日常である私たちに、命を愛でることを思い出させてくれる存在でもある。彼は今日も研究室内に話題と愛想を提供しながら、同時に、私たちの心に均衡をもたらしてくれているのかもしれない。

ペットと病理医

埼玉医科大学総合医療センター病理 阿部 佳子



うちには 4 歳になるチワワがいる。彼女がうちに来たのは、2011 年 3 月の震災直後のことであつたが、その年の 2 月からうちに来る予定になつてた。来た当初は、自分の名前も覚えておらず、震災後の計画停電の

暗闇の中で、ケージに設置した水飲みの装置を壊して、慌てさせられた。部品を誤飲しないように名前を呼んでも、自分のこととは気がつかない彼女からは反応がなく、暗い上に黒い子犬であり、見つけるのに苦労したことを思い出す。そんな彼女も、今やすっかり息があつた相棒になつている。

仕事から帰宅すると、首につけた鈴の音がチリチリンと鳴る。

きつと熟睡していたに違いない彼女は、ゆったりと伸びをして、あくびをした後、落ち着かない様子でお座りをする。ケージに入れて外出することになっている我が家では、外に出してやると一目散に膝に飛び乗ってくる。当然、勤務医の仕事では、一緒にいられない時間が多いので、犬と一緒に暮らすことを決めた時に、独立心も自立心も強い犬種と言われるチワワと住むことに決めた。

ところが、うちの子はどうやら extraordinary に甘えん坊らしい。家で仕事をする時は、100% 膝に乗っている。こうして、この原稿を書いている間も彼女は膝の上で、丸くなって眠っている。私が難解な論文の理解に苦しんでいれば、調べ物を広げているところにトコトコやって来て、まるで自分が読んでいるかのように、本の上に伏せてしまう。次のページに進むには、ちょっとどいて下さいよと断わるはめになる。しかし、仕事の邪魔をするのかと思いきや、こちらが、本当に切羽つまって集中している間は、今原稿をうっている間のように、すっかりおとなしくしている。動物はごまかせないもので、ちょっと、もう仕事はいいかしらと集中力が途切れようものならば、すぐに察知されてしまう。いつもの、ひよこのおもちゃを口にくわえて持ってきて、遊ぼうとばかりに、すぐそばに置く。遊ばないのよと無視をすれば、少しは足に触れそうな距離に鼻づらで押し付けてくる。不思議なことに、仕事に出かける時はおとなしく、ケージに入り、休日の外出では、ソファの下から出てこない。

大したしつけもしていないが、物を壊すようないたずらもしないので、本当に手がかからないが、自分がいなくなったら大丈夫かしらと不安になる。

こんな、親ばか飼い主を察して、臨床の先生方も職場のデスクにあるわんこの写真にちらっとお世辞を言って去っていく。みなさん、私が彼女に支えられているのはよくご存じで。

病理医とペット

昭和大学医学部臨床病理診断学 瀧本 雅文

小学生のころ、黒い長毛でカールのかかった小型の雑種犬を飼っていました。若くして病死したのがトラウマとなっていたのかあまり犬を飼おうという気にはなっていませんでしたが、二十数年後、結婚して子供が小学生になったころ、たまたま散歩中に黒い毛並のよい犬を見たとき、この犬を飼ってみたいという衝動が突然わいてきました。それがラブラドル・レトリバーで、盲導犬や警察犬としても活躍している犬種です。ちょうど近所に、この犬種の繁殖家がいる、雌の仔犬を分けてもらい、運よく飼うことができました。

アンナと名づけましたが、穏やかで従順な性格で家庭犬としては素晴らしい、特に訓練などはしませんでした。暮らしの相棒でありパートナーのような存在でした。犬の性格や個性の



半分は犬種ではほぼ決まり、残りの半分の半分は幼児期の環境で決定すると、動物学者は言います。そうすると自分たちで仔犬を手にしてから作られるのは1/4程度の個性に過ぎないこととなります。繁殖家との約束で、犬が2歳半の頃交配し、10頭の仔犬を出産しましたが、今でも忘れられない思い出です。深夜、寝室のベッドのうえで産気づいて慌てて下におろして、明け方近くまで次々と10頭の仔犬が生まれてきました。ちょうど夏休みの時期で、子供たちにとっても貴重な経験となりました。

アンナが7歳で病死し、家族全員がペットロスのような状態になりましたが、数ヶ月のブランクをおいて、同じ犬種の雌（エバ）を再び飼い、数年後友人の紹介で黒い子猫（軽井沢で獣医に保護されていた推定3ヶ月）も飼うことになり、黒い犬・猫と一緒に生活をしていましたが、3年前にエバは14歳半で天寿を全うしました。

若い時から年老いて介護が必要になり、そして最後の姿までみる事ができたペットを家族にもてたことで、普段あまり意識しなかった自分や家族の一生についても深く考えるようになった気がしています。

ポメリと私

公立陶生病院病理診断科 小野 謙三



私の毎日は小さな白い毛球の襲来から始まる。掛け布団に勢いよく跳ね上ると、胸の上に仁王立ちになり、私が起きるまで「顔ペロペロ攻撃」を止めない。ようやくこの挨拶が終わる頃を見計らって、私はこの生きた目覚まし時計をひょいと抱え上げ、居間に下りていく。これが愛犬ポメリの最初の日課であり、彼女が家に来てからの変わらぬ習慣である。ポメリは12歳の真っ白なロングコートチワワで、臍長けたレディーである。それにしてはいささかはしたくない「起こし方」であるが、職務に忠実なことには頭が下がるし、おかげで私の目覚めもすこぶる快調である。

人と同様、ペットとの「出会い」もある。私は幼少から大変な犬好きであったが、大学生の頃、実家で飼っていた2匹のアメリカンコッカースパニエルが相次いで亡くなってから、いわ

ゆるペットロス症候群のような状態になり、「もう二度と犬は飼わない」と固く誓った。そのときから約30年、妻子の要望も頑なに撥ね付け、その戒めを破ったことは無かった。しかし、ある年の秋、幾度かにわたる攻防のすえ、ついに刀折れた私は、「見るだけ」を条件に妻子とともにペットショップを訪れることになってしまった。内心、心が浮き立っていたかもしれない。しかし、飼う気は全くなかったのである。それが、ショップに入ってすぐ近くのケージ内でよちよちと歩いている小さな白い子犬を見つけたとき、その愛らしさにすっかり参ってしまった。内側がピンクの大きな耳、黒い小さな鼻、ブラックダイヤのような「ウルウル」の瞳が頼りなげにこちらを見ていた。一目惚れである。犬種は何だかわからなかったが、店の人に聞くと「チワワ」とのこと。まずそれにびっくりした。書店のペットコーナーではしばしば立ち読みをして、犬の種類や特徴には精通していたはずであったが……。私のイメージでは、チワワは短毛で、脆弱かつ神経質そうな犬であったが、眼前の子犬は全く違う。毛もモコモコしている。後で知ったことであるが、チワワはメキシコ産の「テチチ」が原種だという説が有力で、色々と改良されて(私の記憶にあった)チワワ(こちらはショートコートと言われている)になり、さらにパピヨンやポメラニアンとの交配により、ロングコートタイプが作出されたという。ケージから出して、膝に抱かせてもらったが、益々可愛さが募る。何時の間にか、私が一番熱心に飼う気になっていた。よくよく眺めてみるとどこかで見たような気がする。店の人が(当時、一世を風靡した)例のCMの犬だと教えてくれた。何だ、あのCMと全く同じシチュエーションじゃないか。愛玩犬おそるべし、である。

それからポメリは、あっという間に我が家になくはならない存在になった。ポメリ(保芽里)の名前は、妻と二人の娘から一字ずつ拝借した。たしかPommeryというシャンパンもあるし、チワワの丸く突き出た頭を「アップルヘッド」と言い、リングはフランス語でpommeであるし、丁度よいと気に入っている。チワワは大変飼いやすい。小さい(飼い始めた頃は650g、現在でも2.8kg)から食べる量は少ないし、散歩も随時でよい。すぐにトイレトレーニングも終え、留守番も出来るし、夜鳴きもしない。家族や親しい人には本当に愛情深いし、お茶目で愛らしく、表情豊かである。言葉も良く理解でき、躰けやすい。帰宅時にはこれ以上ないというほどの大歓迎ぶりである。小さい体と頭を精一杯駆使して頑張っている姿を見ると、健気で、何だかこちらまで励まされる気がする。ただ、気が強く、身内以外の人や犬に時々吠えるのには往生することもある。自分の十倍もある犬に猛然と立ち向かっていくので、その勇氣には感心するものの、蛮勇としかいいようが無い。散歩の際には実にハラハラする。この超小型犬の先祖たちはこうやって強気に生き抜いてきたのだなと、妙に納得したりする。

犬、特に愛玩犬は飼い主に何ら実利的、物理的利益を与える

ものではない。そして大体は人より早足で世の中を駆け抜け、飼い主に切ない思いを残して去っていく。しかし、こちらを見上げるつぶらな瞳を凝視するとき、無償の愛、絶対的な信頼感というものがあるのだ、ということに改めて教えてくれる。我々が失いつつあるもの、それを思い起こさせてくれる。そんな理屈よりもその温もり、手触りが何にも換えがたい安らぎを与えてくれる。どうしてもポメリに甘くなり、躰けがおろそかになると家人に非難されつつ、根源的な心地よさに浸りながら、今日も膝の上で転寝する我が愛犬の重さとおどけない表情を楽しんでいる。

私と3匹の愛犬

高知赤十字病院・病理診断科 黒田 直人



私には3匹の愛犬がいる。2匹は柴犬で、10歳のメスのまるみと10歳のオスのたけしであり(lady first)、1匹は5歳のアイリッシュウルフハウント

のメスの紅(べに)である(年功序列)。私は千葉ロッテマリーンズのファンなので、以前に在籍していた外国人助っ人の名前にちなんで“ベニー”と語尾を伸ばして呼んでいる。アイリッシュは大型犬であり、体格は柴犬の3~4倍くらい大きさがある。3匹とも室内で飼っている生活を送っている。

犬は階層意識の強い動物であり、喧嘩風景をみていると、家庭の中でも階層がすぐみとれる。3匹の間では、1番体型の小さいまるみが1番、たけしは2番で、ベニーは3番のようであり、体格と逆相関している点が非常に興味深い。人間の世界では体格の大きい人が小さい人を支配する傾向の強いと思われるが、犬は決してそうではない。ちなみに飼い主との間でも犬は階層をつけるようである。犬が自分より上だと思ふ要因は散歩に連れて行ったときに犬を引っ張っていると自分より飼い主が上だと思ふようであり、散歩する機会の多い妻は我が家では1番上の階層になっており、私はベニーの下で、1番下のようである。悲しい現実である。たけしは典型的な犬性格で、人懐っこく、私になついているのでスキンシップも多い。まるみは非常に警戒心が強く、典型的猫性格であり、こちらから体に触れるとすぐに噛みつく癖を持っている。犬と一緒に布団の中で寝る生活であるが、まるみが私と一緒に布団で寝たのは飼い始めて5年後のときであったが、その時は非常に嬉しく、感動して涙したことを今までも覚えている。冬場ではお布団の中にもぐってくるので、暖房なしでもまるみの体毛で暖かに眠ることができる。

犬を飼って1番良かったと思ふことは犬の純粋さに触れるときである。たとえば、仕事に行って帰ってきた際にはしっぽを

振って喜びを示してくれる。嫌なことが職場であったときもそうでないときもいつも私を歓迎してくれることは家庭内で1番階層の下の私も心より家族だと思ってくれていると感じるのは犬の良さでしょうか。出張で家を空ける機会も最近多くなってきたが、数日間にわたる出張だと、犬は皆私が死んでしまったのではないかと思込んでいる節があり、4日ぶりに家庭に帰ってきたときなどは飛び跳ねて喜んでくれるので、私も非常に幸せな気分になる。妻もこれくらい喜んでくれたらよいのと思うのは私だけでしょうか？

妻が偉大だと思う瞬間がある。それは犬の訴えが理解できていた時である。犬語を理解しているのかと思ったこともある (It's Greek to me) が、犬が体調不良のときはどこが悪くて訴えているのかをすぐに理解している。スキンシップをはかっている時間の長さの違いと言ってしまうとそれまでだが、私とは比べものにならないほどの愛情の深さなのであろうと思うと敬服する。彼女が江戸時代に生まれていたら生類憐みの令を出した犬公方 (徳川綱吉) の騒ぎではなかっただろうと推察する。

私にとって高知の自然と犬の存在は癒しを得るという意味では何よりも大きく、仕事が心地よくできるのも3匹の犬の御蔭であることは言うまでもありません。皆さんも犬を飼いませんか？ ハッピーな人生を送れますよ。

~~~~~  
ドッグ、わん！

九州大学病院病理診断科 山元 英崇



私は社会人になってから、2匹の犬を飼いました。最初はバグでした。しわくちやの顔で鼻息をプープー鳴らすので、プーと名付けました。いたずら好きのやんちゃな男の子でした。ある朝目が覚めると、見たこともない真っ白な生物がベッドの横にいます。よくよく見ると全身に粉をかぶったプーでした。夜の間に

お腹が空いたのか、袋がぼろぼろになった小麦粉がぶちまけられており、家中、白い粉まみれです。米や卵の被害も数知れず、生麦・生米・生卵とはこのことです！ 妻の妊娠を機に実家に預けていたのですが、プーくんは残念ながら肺炎になって亡くなってしまいました。

その後、子供が小学生になるころ飼い始めたのが、今の愛犬、トイプードルのかりんです。我が家の子供たちは皆、季節の花に関係した名前なので、秋生まれの彼女はかりんと名付けられました。私が帰宅すると、しっぽをブルブル振りながら、わん！わん！と全身で喜んでくれます。人間であれば、いったい誰がこんなにも私を歓迎してくれるのでしょうか？ でも、興奮しすぎておしっこを漏らすので、夜中のトイレ掃除は、仕事疲れの

中間管理職の体にはこたえます。手はかかりますが、犬を飼う喜びは何と言っても癒しですね。診断で悩んだり、研究が思うようにいかずに抱えるモヤモヤとした気持ちは、一旦リセットされます。そして、犬、人、社会的地位など何も関係なく、ただ純粹に生きていること自体の喜びを、つぶらな瞳が教えてくれている気がします。ご飯と暖かい布団があれば幸せなはずなのに、人間はどこまで欲深いのでしょうかね。手がかかると言えば、若い病理医の育成も同じかもしれません。時間も手間もとられますが、職業人としての彼ら彼女らの成長、そして、仕事を離れても続く個人としての結びつきは、育てる側へ喜びを与えてくれるのだと思います。自分もそうやって先輩方に育てられてきたので、次の世代へ恩返しをしないとイケません。

ところで、私は GIST の研究をしています。実は犬にも GIST が発生し、KIT 変異があることが、かの有名な Miettinen 先生らによって報告されています。私の講演のスライドに時々、かりんちゃんが登場しますので、そのときはどうぞよろしくお願いします。ドッグ、わん！ (DOG1)。お後がよろしいようで。

==私の趣味===== マラニックと結婚

奈良県立医科大学病理診断学講座 畠山 金太

陸上自衛隊でレンジャーをされていた方の指導を仰ぎ、この10年ほどマラニックをやっています。マラニックとはマラソンとピクニックの両要素を組み合わせたスポーツで、全長150キロ~200キロぐらいを昼夜にわたり走ったり歩いたりしながら目標地点を目指します。途中の60キロぐらいはエスケープルートのない山道で、もちろん携帯もつながらず、コンビニはおろか自販機、民家もない道を深夜から朝方にかけて通過するようなルート設定で、当然、完走するしか選択の余地のない区間を入れています。

今までに走ったコースは、屋久島一周 (約100キロ；多数のシカとサルに囲まれる西部林道へ未明に突入。途中で海中温泉にも入浴)、鹿児島島の桜島-宮崎駅 (140キロ；桜島では火山灰の嵐で前が見えなかった)、高千穂 (九州山地のど真ん中)-宮崎駅 (180キロ；40度の灼熱地獄を意識もうろう状態で完走)、大分駅-宮崎駅 (200キロ；難所の宗太郎峠を深夜に越える) などです。

年に1回程度おもに真夏に行い、金曜夕方にスタートしてゴールは日曜の夕方、もちろん一睡もできません。走りながらウトウトしたり山頂に自販機 (幻覚) がみえたり、警察の職務質問を受けたりと様々な貴重な経験もできます。また究極の状態に追い込まれるので、自身を含めた人の本質がみえてきて人生勉強にもなります。通常、男ばかり3~4人が参加するのですが、時に勇猛な女性が混ざることがあります。ある時、大学の内科研究室で実験している女性と立話していたら四国の歩き遍路や京都で禅を組んだりしている変わり者と判明し、マラ

ニックへ誘ったら即答でOKとなり一緒に走るようになりました。

話は変わりますが私が宮崎での31年間の生活を終えて故郷の奈良へ帰ると決めたとき既に49歳でしかも独身でした。上司や同僚に恵まれ日常も充実し仕事も私なりに精一杯やりましたが、心のどこかで過ぎ去りし日々への蹉跎も意識しはじめていました。そして奈良への異動が1年に迫った頃、その蹉跎が「この31年、俺はいったい何をやっていたんだ、嫁さんももらわずに」という具体的な思いに変わっていました。

その時、ふと横をみるとマラニックで共に困難を乗り越えてきた女性がいることに気づき、そして結婚してもらえらるることになり一緒に奈良へ。この2月末には無事に元気な長女が誕生しました。まさに人生が動いた1年半でした。ちなみに女房はどんなコースでもタフに奔走し、今ではフルマラソンを3時間20分台で走るアスリートもどきとなり出産後も自己ベストを更新すると宣言しています。一方、私は幸運にもお産に立ち会うことができ女性の生命力・精神力の強靱さの根源を垣間見て、これからはどんな蹉跎が待っているのか若干の不安の中で日々診断させて頂く幸せも感じています。

==支部報告=====

--北海道支部-----

北海道支部編集委員 深澤 雄一郎

#### 学術活動報告

第169回日本病理学会北海道支部学術集会（標本交見会）が村岡俊二先生（札幌厚生病院臨床病理科）のお世話で2015年1月24日（土）、札幌厚生病院新棟・会議室において行われました。検討された症例は以下のとおりです。

番号 / 発表者（所属） / 症例の年齢 / 症例の性別 / 臓器名（主なもの） / 臨床診断 / 発表者の病理診断 / 討論後の病理診断

14-21: 湯澤明夏, 田中伸哉 / 北海道大学大学院医学研究科 腫瘍病理学分野 / 40歳代 / 女性 / 脊髄 / 11年の経過観察後に摘出され、5年後に再発した頸髄腫瘍の1例 / Subependyoma with astrocytomatous component and high MIB-1 index, WHO grade 1. / Subependyoma with astrocytomatous component and high MIB-1 index, WHO grade 1.

14-22: 岩崎沙理<sup>1</sup>, 桑原 健<sup>1</sup>, 古御堂純<sup>2</sup>, 竿尾光祐<sup>3</sup>, 鈴木 昭<sup>1</sup> / KKR札幌医療センター病理診断科, <sup>2</sup>苫小牧市立病院泌尿器科, <sup>3</sup>苫小牧市立病院病理診断科 / 80歳代 / 男性 / 腎 / 高齢男性に発症した腎腫瘍 / Chromophobe RCC, oncocytic variant / Chromophobe RCC, oncocytic variant と Oncocytoma との鑑別困難. Oncocytic tumor として follow up

14-23: 松田玲奈, 伊藤真理子, 八代真一, 村上洋平, 鹿野 哲, 佐々木豊 / 勤医協中央病院病理診断科 / 60歳代 / 女性 / 腎 / 稀有な組織型と思われた腎腫瘍の1例 / mucinous tubular and spindle cell carcinoma / mucinous tubular and spindle cell carcinoma

14-24: 柳内 充, 石井保志, 辻 隆裕, 伊丹弘恵, 秋元真祐子, 深澤雄一郎 / 市立札幌病院 病理診断科 / 40歳代 / 女性 / 腎 / 嚢胞形成する腎病変 / Mixed epithelial stromal tumor (MEST) / Mixed epithelial stromal tumor (MEST)

第170回日本病理学会北海道支部学術集会（標本交見会）が村岡俊二先生（札幌厚生病院臨床病理科）のお世話で2015年3月14日（土）、札幌厚生病院新棟・会議室において行われました。検討された症例は以下のとおりです。

14-25: 池田 健, 辻脇光洋 / 函館五稜郭病院パソロジーセンター / 10歳代 / 男性 / 脾 / 若年者に発生した脾腫瘍の1例 / Angiosarcoma of the spleen / Angiosarcoma of the spleen

14-26: 藤野景子, 柳内 充, 石井保志, 辻 隆裕, 伊丹弘恵, 秋元真祐子, 深澤雄一郎 / 市立札幌病院病理診断科 / 60歳代 / 男性 / 頸部リンパ節 / 成人男性の転移性頸部腫瘍症例 / Xp11.2転座型腎細胞癌 / Xp11.2転座型腎細胞癌

14-27: 市原 真, 岩口佳史, 後藤田裕子, 村岡俊二 / JA北海道厚生連札幌厚生病院病理診断科 / 50歳代 / 女性 / 甲状腺 / 甲状腺腫瘍の1例 / Solitary fibrous tumor of the thyroid / Solitary fibrous tumor of the thyroid

14-28: 木村幸子<sup>1</sup>, 長谷川淳<sup>1</sup>, 高橋秀史<sup>1</sup>, 小杉陽祐<sup>2</sup>, 石川 淑<sup>2</sup> / <sup>1</sup>北海道立子ども総合医療・療育センター検査部病理診断科, <sup>2</sup>同新生児内科 / 日齢0 / 男児 / 胎盤 / 出生時より体幹に増強する紫斑を認めた児の胎盤 / Chronic placentitis, probably CMV / Chronic placentitis, probably CMV

14-29: 岩崎沙理<sup>1</sup>, 古屋充子<sup>2</sup>, 桑原博昭<sup>3</sup>, 大槻雄士<sup>3</sup>, 石津明洋<sup>4</sup>, 桑原健<sup>1</sup>, 鈴木 昭<sup>1</sup> / <sup>1</sup>KKR札幌医療センター 病理診断科, <sup>2</sup>横浜市立大学医学部 分子病理学講座, <sup>3</sup>KKR札幌医療センター 呼吸外科, <sup>4</sup>北海道大学大学院 病態解析学分野 / 40歳代 / 男性 / 肺 / 気胸を反復した40代男性の1例 / Birt-Hogg-Dube syndrome (肺病変) / Birt-Hogg-Dube syndrome (肺病変)

14-30: 高橋利幸<sup>1</sup>, 藤澤孝志<sup>2</sup> / <sup>1</sup>医療法人彰和会北海道消化器科病院病理部, <sup>2</sup>北海道大学病院病理部 / 60歳代 / 男性 / 回腸 / 壮年男性の虚血性腸炎, 回腸動脈瘤の1例 / Fibromuscular dysplasia, intimal fibroplasia type / Fibromuscular dysplasia, intimal fibroplasia type

同日、平成26年度病理医会総会が行われました。

#### 北海道病理医会代臨時総会の報告

以下の事項について報告、討議がなされ、承認された。

#### 報告・承認事項

##### 1. 代表者会議メンバーの決定について

池田 健（函館五稜郭病院）今村正克（札幌診断病理学センター）大内知之（恵佑会札幌病院）鹿野哲（勤医協中央病院）菊地慶介（帯広厚生病院）小林博也（旭川医科大学大学院免疫病理）今信一郎（市立室蘭総合病院）近藤信夫（ジェネティックラボ病理解析センター）澤田典均（札幌医科大学医学部第二病理）篠原敏也（手稲溪仁会病院）鈴木 昭（KKR札幌医療センター）高桑康成（NTT東日本札幌病院）高橋秀史（北海道子ども総合医療・療育センター）高橋達郎（釧路労災病院）高橋利幸（北海道消化器科病院）立野正敏（釧路赤十字病院）田中伸哉（北海道大学大学院腫瘍病理）外丸詩野（北海道大学大学院分子病理）鳥越俊彦（札幌医科大学医学部第一病理）西川祐司（旭川医科大学大学院腫瘍病理）長谷川 匡（札幌医科大学附属病院病理部）深澤雄一郎（市立札幌病院）松野吉宏（北海道大学病院病理部）三代川斉之（旭川医科大学病院病理部）村岡俊二（札幌厚生病院）山城勝重（北海道がんセンター） 26名

##### 2. 新役員の決定について

北海道病理医会会長（代表者） 長谷川 匡

北海道病理医会副会長（副代表） 鹿野 哲  
 標本交見会担当幹事 深澤雄一郎  
 庶務・会計担当幹事 鈴木 昭  
 選挙管理委員 近藤信夫  
 監事 村岡 俊二

3. 平成 27 年度 事業計画案について

1) 標本交見会

担当幹事：市立札幌病院病理診断科 深澤雄一郎先生

バーチャルスライド協力：

北海道がんセンター 山城 勝重先生

特別講演：湘南鎌倉総合病院 手島 伸一先生

会場：市立札幌病院 2 階講堂

日時：

第 171 回 6 月 27 日（土）

第 172 回 9 月 12 日（土） 特別講演

第 173 回 1 月 30 日（土）

第 174 回 3 月 12 日（土）

2) 共催事業等

細胞診講習会（日本臨床細胞学会北海道支部との共催）

11 月頃

L ymphoma Clinico-Pathology Conference (LCPC) 7 月, 2 月頃

3) 病理医会施設代表者会議

随時

4) 病理医会総会

定例 平成 28 年 3 月

-- 東北支部 -----

東北支部編集委員 長谷川 剛

第 80 回日本病理学会東北支部学術集会在、東北大学の良陵会館で平成 27 年 2 月 21, 22 日に行われた。オープニングの教育講演、夕刻からの若手育成講習会と引き続いての会員懇親会、2 日目には特別講演と、一般演題とともに充実した学術集会で、会場も満席であった。長沼廣支部長・学術集會会長の要望で久方ぶりに行われたラウンジでの懇親会では、多くの参加者に振る舞われるように銘酒も並び、2 次会・3 次会とそれらのお酒を相伴して仙台を楽しんだ。

【教育講演】 石田和之 岩手医科大学医学部病理診断学講座

「腺腫瘍の病理診断 ～疾患の理解と診断のポイント～」

【若手育成講習会】 渡辺みか 東北大学病院病理部

「骨軟部腫瘍診断のポイント」

【特別講演】 黒瀬 顕 弘前大学大学院病理診断学講座

「脳腫瘍の病理診断と知っておきたい基礎知識」

— 悪性度解析は脳腫瘍からはじまった —

【一般演題】

1. 長谷川剛, 他 新潟大学分子細胞病理学分野

- 胃に限局した Crystal-storing histiocytosis の 1 例/Crystal-storing histiocytosis
2. 緒形真也, 他 山形県立中央病院病理診断科  
 家族性大腸腺腫症に生じた胃病変の 1 例/Adenocarcinoma ex FAP-associated fundic gland polyp
3. 安藤紘花, 他 東北薬科大学病院病理部  
 多発胃癌の 1 例/AFP producing gastric cancer with neuroendocrine differentiation
4. 辻脇光洋, 他 函館五稜郭病院パソロジーセンター  
 胃・十二指腸有茎性腫瘍の 2 例/Brunner's gland hamartoma/hyperplasia
5. 柳川直樹, 他 山形県立中央病院病理診断科  
 肺腫瘍の 1 例/Intravascular papillary endothelial hyperplasia
6. Olga Razvina, 他 新潟大学分子細胞病理学分野  
 甲状腺腫瘍の 1 例/Conventional papillary thyroid carcinoma with Warthin's tumor like variant
7. 薄田浩幸, 他 長岡赤十字病院病理診断部  
 肝腫瘍の 1 例/Mesenchymal hamartoma of the liver
8. 村上圭吾, 他 東北大学病院病理部  
 肝腫瘍の 1 例/Undifferentiated sarcoma of the liver
9. 樺澤崇允, 他 山形大学医学部病理診断学講座  
 肝腫瘍の 1 例/Metastasis of atypical meningioma
10. 立野紘雄, 他 日本病理研究所  
 口蓋腫瘍の 1 例/MALToma ex Sjogren syndrome
11. 金居李紗, 他 公立藤田総合病院  
 左上顎洞腫瘍の 1 例/Low-grade central osteosarcoma
12. 南條 博, 他 秋田大学医学部付属病院病理部  
 左上腕皮下腫瘍の 1 例/Pleomorphic hyalinizing angioectatic tumor
13. 庄司裕美子, 他 みやぎ県南中核病院  
 小脳扁桃ヘルニアと心筋 CBN/Contraction band necrosis
14. 平井秀明, 他 弘前大学病理生命科学講座  
 卵巣病変の 1 例/Polypoid endometriosis
15. 木村伯子, 他 国立病院機構函館病院  
 腎静脈に伸展した腎腫瘍の 1 例/Composite hemangioendothelioma of the kidney
16. 杉本 亮, 他 岩手医科大学医学部病理診断学講座  
 腎腫瘍の 1 例/Mucinous tubular and spindle cell carcinoma with sarcomatous change of the kidney
17. 板倉 裕子, 他 石巻赤十字病院病理科  
 子宮腫瘍の 1 例/Epithelial trophoblastic tumor
18. 山田 英晴, 他 みやぎ県南中核病院  
 剖検で原発巣を特定できなかった神経内分泌癌の多発転移例/原発不明注) 一般演題は、筆頭演者、所属および演題名/演者診断の順

-- 関東支部 -----

第 66 回日本病理学会関東支部学術集會報告

東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科包括病理学

北川 昌伸

2015 年 2 月 21 日、東京医科歯科大学湯島キャンパスにおいて第 66 回日本病理学会関東支部学術集會が開催されました。今回は、「最近改訂された WHO 分類とその問題点」といった観点から肝と肺の腫瘍性病変を話題とした特別講演 2 題をご依頼し、それに関連した一般演題 7 題（手術・生検症例 5 題、剖検例 2 題で、前半 4 題は肝病変、後半 3 題は肺病変に関連した

症例)の症例提示, 検討が行われました。特別講演を快くお引き受けくださった近藤福雄先生, 石川雄一先生には心より御礼申し上げます。当日は254名の参加者があり, 活発な質疑, 討議がなされて座長の先生方も苦勞されるほどの盛況振りでした。多くの有意義な討論がありましたが, 座長, 演者, 参加者の先生方のご尽力のおかげで大きな遅れもなく, 概ね時間どおりに会を進行することができました。改めて深謝申し上げます。学術集会終了後の懇親会にも70名ほどの方にご参加いただき, 大盛会となりました。皆様が大いに交流を深め, 多くの情報を交換する場になったものと期待いたします。

当日のプログラムは以下の通りです。

#### 【特別講演 ①】

講師: 近藤福雄 (帝京大学医学部附属病院・病理診断科)

演題: 肝結節性病変の病理: 最近のトピックス

座長: 猪狩亨 (国立国際医療研究センター・病理診断科)

#### 【一般演題 ①】

座長: 小林大輔 (東京医科歯科大学医歯学総合研究科・人体病理学分野)

1. チタンデバイス留置が原因と考えられた術後肝肉芽腫の1例  
二本柳康博 (東邦大学医療センター大森病院・病院病理) ほか
2. 肝多胞性エキノコックス症の疑いで肝右葉切除を施行された一例  
日比谷孝志 (横浜市立大学附属病院・病理診断科) ほか  
座長: 谷澤徹 (都立墨東病院・検査科)
3. 多段階発育が示唆される多発性肝細胞性結節の1例  
斉藤光次 (帝京大学・病理診断科) ほか
4. 小葉間胆管由来が示唆された細胆管細胞癌の一例  
伊藤慎治 (国家公務員共済組合連合会虎の門病院・病理診断科) ほか

#### 【関東支部会幹事会報告】

支部長: 内藤善哉 (日本医科大学大学院・統御機構診断病理学)

#### 【特別講演 ②】

講師: 石川雄一 (がん研究会癌研究所・病理部)

演題: 肺癌の新しい分類の考え方—新WHO分類の概要

座長: 中谷行雄 (千葉大学大学院医学研究院・診断病理学)

#### 【一般演題 ②】

座長: 横山宗伯 (東京警察病院・病理診断科)

5. 間葉系成分と粘液腺腫様成分からなる肺良性病変の1例  
山田 倫 (がん・感染症センター都立駒込病院・病理科) ほか
6. 濾胞性リンパ腫に対する化学療法, 自己末梢血幹細胞移植後に上葉優位の間質性肺炎を呈した1剖検例  
児玉 真 (東京医科歯科大学医歯学総合研究科・人体病理学分野) ほか
7. 多発性骨髄腫を背景として全身性ALアミロイドーシスを来し, 肺高血圧症を呈した1剖検例  
橋本浩次 (NTT 東日本関東病院・病理診断科) ほか

### 第69回埼玉病理医の会

期日: 平成27年2月13日(金)

会場: 埼玉医科大学かわごえクリニック

世話人: 佐々木惇 (埼玉医科大学病理学)

参加人数: 35人

#### 〈症例検討〉

- 1) 埼玉医科大学国際医療センター / 榊 美佳 / 76歳 / 女 / 左卵巣腫瘍 / Sertoli-Leydig cell tumor of moderate differentiation
- 2) 埼玉県立小児医療センター / 岸本 宏志 / 1歳9か月 / 男 / 小脳~松果体部腫瘍 / Anaplastic medulloblastoma with rhabdoid features (Atypical teratoid/rhabdoid tumor との鑑別が問題となった症例)
- 3) 防衛医科大学校 / 桂田 由佳 / 37歳 / 女 / 右乳腺腫瘍 / Periductal stromal tumor
- 4) 埼玉医科大学 / 市村 隆也 / 21歳 / 男 / 左顎下線部腫瘍 / Nodular lymphocyte predominant Hodgkin lymphoma

#### --- 中部支部 -----

中部支部編集委員 森谷 鈴子

#### 第18回日本病理学会中部支部スライドセミナー

日時: 2015年3月14日(土)

会場: 愛知医科大学

世話人: 愛知医科大学病院病理部 高橋恵美子先生

参加人数: 140人

#### 【講演】

講演1 びまん性大細胞型B細胞リンパ腫の特殊病型: 病理診断

名古屋大学大学院臓器病態診断学 中村栄男先生

座長: 春日井市民病院病理部 立山尚先生

講演2 臨床病態と検査所見から推測するリンパ腫診断へのアプローチ

藤田保健衛生大学血液内科学 岡本昌隆先生

座長: 名古屋大学大学院臓器病態診断学 中村栄男先生

講演3 中間型リンパ腫の病理

東海大学医学部病理診断学 中村直哉先生

座長: 公立陶生病院病理部 小野謙三先生

#### 【症例検討】

S2015-1 名古屋医療センター病理診断科 岩越朱里 10代前半 女性 唾腺腺 EBV-associated B-cell lymphoma.

家族性, 先天性の免疫不全を背景に発生したと考えられ, MALT lymphoma に類似した所見を呈した。非常に稀少で, MALT lymphoma という言葉を使うことの是非や grade をどのようにとらえるか, 最適な治療は何かといった点も含め今後解決されるべき課題が多い症例であった。

S2015-2 諏訪中央病院病理診断科 浅野功治 70代後半 男性 腋窩 Diffuse large B-cell lymphoma with *Myc* translocation.

Burkitt lymphoma や intermediate lymphoma との鑑別について議論になった。CD20(-)や節外での bulky lesion の形成など特異な所見があり, コメンテーターからは high-grade B-cell lymphoma, unclassified with *Myc* translocation との意見も出た。

S2015-3 三重大学附属病院病理診断科 今井裕 70代前半 男性 下肢軟部 Extrasosseous plasmacytoma, anaplastic/plasmablastic type with aberrant CD3 expression. Plasmablastic lymphoma との鑑別について様々な考え方が示された。Aberrant な CD3 の発現が診断上の pitfall になった症例でもあった。

S2015-4 福井大学医学部附属病院病理診断科 小上瑛也 90代 女性 頸部 Langerhans cell sarcoma

特徴的な免疫染色 profile とともに電子顕微鏡で奇麗な Berbeck 顆粒が確認された。稀な典型例であった。



S2015-5 石川県立中央病院病理診断科 津山翔 60代後半 男性 頸部リンパ節 Low-grade B-cell lymphoma, CD5(+)

専門家の間でも CLL/SLL と nodal marginal zone B-cell lymphoma で意見が分かれた。また、SOX11 の非常に弱い発現を重視すれば mantle cell lymphoma も捨てがたいとの意見も出た。

S2015-6 市立砺波総合病院病理診断科 奥野のり子 80代前半 男性 頸部リンパ節 Peripheral T-cell lymphoma, not otherwise specified (CD20-positive T-cell lymphoma).

CD20 が aberrant に発現していた T-cell lymphoma. T-cell に CD20 が発現する理由について様々な仮説が紹介された。

S2015-7 磐田市立総合病院病理診断科 谷岡書彦 60代後半 男性 頸部リンパ節 Angioimmunoblastic T-cell lymphoma with EBV-positive Hodgkin/RS cells and popcorn cells of B-cell lineage.

T-cell のみならず EBV 陽性の B-cell にも monoclonality が証明された。B-cell 増殖については lymphoma と呼ばず AITL に付随する monoclonal B-cell proliferation と捉えるのが妥当であるとのコメントがなされた。

#### 【中部支部学術奨励賞受賞式】

学術奨励賞 カテゴリー A (専門医試験合格前)

滝 哲郎先生 (公立陶生病院)

櫻井映子先生 (藤田保健衛生大学病理診断科)

杉山誠治先生 (木沢記念病院)

学術奨励賞 カテゴリー B (専門医試験合格後3年以内)

中田聡子先生 (金沢医科大学臨床病理学)

学術奨励優秀発表賞

浅野功治先生 (諏訪中央病院病理診断科)

#### 次回学術集会

第75回日本病理学会中部支部交代会

2015年7月4日(土)、5日(日)

会場: 信州大学

世話人: 相澤病院 樋口佳代子先生

#### 東海病理医会 検討症例報告

##### 第306回

(平成26年11月15日参加者15名 於: 藤田保健衛生大学)

症例番号 / 病院名 / 病理医 / 年齢(歳代) / 性 / 臓器 / 臨床診断 / 病理組織学的診断

4747 / トヨタ記念病院 / 北川 諭 / 10 / 男 / 皮膚 / 皮膚腫瘍 / Neurothekeoma

4748 / 静岡赤十字病院 / 桐山諭和 / 50 / 女 / リンパ節 / 悪性リンパ腫疑い / Hodgkin's disease

4749 / 藤田保健衛生大学病院 / 塚本徹哉 / 60 / 女 / 胃十二指腸 / 十二指腸腫瘍 / Chief cell adenoma

4750 / 藤田保健衛生大学病院 / 浦野 誠 / 70 / 女 / 鼻腔 / ウェッジナー肉芽腫症 / Wegener's granuloma

4751 / 藤田保健衛生大学病院 / 浦野 誠 / 40 / 男 / 外耳道 / 外耳道腫瘍 / Syringocystadenoma papilliferum

4752 / 藤田保健衛生大学病院 / 中川 満 / 40 / 男 / 甲状腺 / 乳頭癌 / Medullary carcinoma

4753 / 藤田保健衛生大学病院 / 中川 満 / 70 / 男 / 腎 / 腎癌 / Renal cell carcinoma, unclassified

4754 / 諏訪中央病院 / 浅野功治 / 70 / 女 / 卵巣 / 卵巣腫瘍 / Brenner tumor of borderline malignancy

4755 / 諏訪中央病院 / 浅野功治 / 70 / 男 / 肝 / 肝腫瘍 / Metastatic adenocarcinoma

4756 / 鈴鹿中央総合病院 / 村田哲也 / 70 / 女 / 鼻中隔 / 鼻中隔腫瘍 / Reactive adenomatous hyperplasia

4757 / 鈴鹿中央総合病院 / 村田哲也 / 40 / 男 / 鼻腔 / 鼻腔内腫瘍 / Juvenile xanthogranuloma

4758 / 木沢記念病院 / 山田鉄也 / 30 / 女 / 虫垂 / 虫垂炎 / Barium appendicitis

4759 / 木沢記念病院 / 山田鉄也 / 40 / 男 / 軟部 / 皮下腫瘍 / Sarcoma, unclassified

##### 第307回

(平成26年12月13日参加者16名 於: 藤田保健衛生大学)

4760 / 藤田保健衛生大学 / 岡部麻子 / 70 / 男 / 胃 / 胃癌 / Gastric carcinoma with lymphoid stroma

4761 / 藤田保健衛生大学 / 岡部麻子 / 70 / 男 / 胃 / 胃癌 / Hepatoid carcinoma

4762 / 藤田保健衛生大学 / 浦野 誠 / 60 / 男 / 頸部 / 頸部腫瘍 / Undifferentiated carcinoma

4763 / 藤田保健衛生大学 / 中川 満 / 70 / 女 / 下垂体 / 乳癌転移 / Granular cell nest

4764 / 大同病院 / 小島伊織 / 30 / 男 / 鼻腔 / 鼻茸 / Olfactory neuroblastoma

4765 / 大同病院 / 小島伊織 / 60 / 女 / 子宮 / 巨大子宮筋腫 / Carcinosarcoma

4766 / 鈴鹿中央総合病院 / 村田哲也 / 20 / 男 / 精巣 / 精巣腫瘍 / Immature teratoma and embryonal cell carcinoma

4767 / 鈴鹿中央総合病院 / 村田哲也 / 80 / 男 / 肝 / 肝腫瘍 / Cholangiocellular carcinoma

4768 / 鈴鹿中央総合病院 / 村田哲也 / 60 / 男 / 脾 / “慢性リンパ性白血病” Infiltration of chronic lymphocytic leukemia

4769 / 鈴鹿中央総合病院 / 村田哲也 / 30 / 男 / 大腸 / 腸炎 / Intestinal spirochetosis

4770 / 鈴鹿中央総合病院 / 村田哲也 / 60 / 男 / 肺 / 肺癌 / Combined carcinoid and adenocarcinoma

4771 / 小牧市民病院 / 栗原恭子 / 40 / 女 / 脳 / 転移性脳腫瘍 / Metastatic leiomyosarcoma

4772 / 小牧市民病院 / 栗原恭子 / 10 / 女 / 脳 / 第4脳室腫瘍 / Medulloblastoma

##### 第308回

(平成27年1月17日参加者17名 於: 藤田保健衛生大学)

4773 / 蒲郡市民病院 / 浦野 誠 / 80 / 女 / 側頭動脈 / 側頭動脈炎 / Giant cell temporal arteritis

4774 / 藤田保健衛生大学 / 黒田 誠 / 60 / 男 / 胃 / 胃癌 / Carcinoma with lymphoid stroma

4775 / 藤田保健衛生大学 / 岡部 麻子 / 20 / 女 / 子宮 / 子宮筋腫 / Benign leiomyoma

4776 / 藤田保健衛生大学 / 岡部 麻子 / 40 / 男 / 前縦隔 / 前縦隔腫瘍 / Thymoma, type AB

4777 / 諏訪中央病院 / 浅野 功治 / 40 / 女 / 乳腺 / 乳腺腫瘍 / Lobular neoplasia

4778 / 大同病院 / 小島 伊織 / 40 / 女 / 肺 / 肺腫瘍 / Lymphoepithelioma like carcinoma

4779 / 鈴鹿中央総合病院 / 村田 哲也 / 70 / 女 / 子宮 / 子宮頸癌 / Adenoid basal carcinoma

4780 / 小牧市民病院 / 栗原 恭子 / 40 / 女 / 腎 / 腎腫瘍 / Metanephric adenoma

-- 近畿支部 -----

近畿支部編集委員 桑江 優子

I. 活動報告

第 68 回日本病理学会近畿支部学術集会在下記の内容で開催されました。

(検討症例, 画像等につきましては (<http://jspk.umin.jp/member/program68th.pdf>) にて閲覧可能です。パスワードの必要の方は事務局までお尋ね下さい)

日時: 2015 年 2 月 14 日 (土)

場所: 大阪市立総合医療センターさくらホール

世話人: 森井 英一先生 (大阪大学)

モデレーター: 棟方 哲先生 (市立堺病院)

テーマ: 婦人科 — 子宮頸部病変

症例検討

座長: 和田 直樹先生 (大阪大学)

856 口蓋腫瘍の 1 例

原田博史先生, 他 (生長会病理センター府中病院病理診断科, 他)

859 子宮体部腫瘍の一例

内山智子先生, 他 (奈良県立医科大学病理診断学講座)

座長: 和唐雅博先生 (大阪歯科大学)

860 頬粘膜腫瘍の一例

野田百合先生, 他 (大阪大学大学院歯学研究科 口腔病理学教室, 他)

861 下顎骨腫瘍の一例

廣瀬勝俊先生, 他 (大阪大学大学院歯学研究科 口腔病理学教室, 他)

特別講演

『子宮頸部病変の産婦人科的取扱い』

植田政嗣先生 (大阪がん循環器予防センター婦人科)

診断講習会

1. 子宮頸部病変における WHO 分類の変更点と扁平上皮病変の解説

長田盛典先生 (大阪府立成人病センター病理・細胞診断科)

2. 子宮頸部腺系病変の解説

若狭朋子先生 (近畿大学医学部奈良病院病理診断科)

3. まれな子宮頸部扁平上皮病変の解説

堀由美子先生 (大阪大学医学部病態病理学講座病理診断科)

4. まれな子宮頸部腺系病変の解説

山田隆司先生 (大阪医科大学病理学教室)

II. 今後の活動予定

1. 学術集会

第 69 回学術集会 (2015 年 5 月 30 日)

開催場所: 京都大学

世話人: 羽賀博典先生 (京都大学)

モデレーター: 中峯寛和先生 (日本バプテスト病院)

テーマ: 悪性リンパ腫

第 70 回学術集会 (2015 年 9 月 26 日)

開催場所: 関西医科大学

テーマ: 泌尿器疾患

第 71 回学術集会 (2015 年 12 月 12 日)

開催場所: 大阪市立大学

テーマ: 神経内分泌腫瘍

第 72 回学術集会 (2016 年 2 月 6 日)

開催場所: 大阪市立大学

テーマ: 肺疾患

2. 病理セミナー

『病理 夏の学校』(2015 年 8 月 22 日)

一病理って? 病理医って? 病理研究って? —

~病理に興味のある医学生・研修医のみなさんを歓迎します~

開催場所: 大阪大学吹田キャンパス 最先端医療イノベーションセンター 1F

-- 中国四国支部 -----

中国・四国支部編集委員 串田 吉生

A. 開催報告

1. 第 116 回学術集会

開催日: 平成 27 年 2 月 14 日 (土)

場所: 岡山大学鹿田キャンパス臨床第一講義室

世話人: 岡山大学免疫病理/第一病理 松川昭博教授

一般演題 17 題が集まり, 活発な討議が行われました。発表スライドや投票結果は (<http://csp.umin.ne.jp/pctindex.htm>) から見る事が出来ます。また, 富山大学大学院医学薬学研究部法医学講座教授 西田尚樹先生による特別講演「自然死と異状死の境界」も行われました。

一般演題

演題番号 / タイトル / 出題者 (所属) / 出題者診断 / 最多投票診断

S2545 / 硬膜内髄外腫瘍 / 堀田真智子 (姫路赤十字病院病理診断科) / Malignant peripheral nerve sheath tumor, radiation-induced / Malignant peripheral nerve sheath tumor

S2546 / 左後頭葉病変 / 太田陽子 (岡山大学免疫病理 / 第一病理) / Cortical tuber and subependymal nodules / Tuberosus sclerosis complex

S2547 / 松果体部腫瘍 / 林俊哲 (香川大学医学部附属病院病理診断科) / Myxoid solitary fibrous tumor / Meningioma

S2548 / 左耳下腺病変 / 黒田直人 (高知赤十字病院病理診断部) / HIV salivary gland disease / Lymphoepithelial cyst

S2549 / 肺腫瘍 / 松岡佑樹 (鳥取大学器官病理学) / High-grade fetal adenocarcinoma / concord

S2550 / 肝巨大腫瘍 / 山本加奈子 (徳島赤十字病院病理部) / Focal nodular hyperplasia / concord

S2551 / 肝硬変 / 西田賢司 (岡山大学腫瘍病理 / 第二病理) / Caroli's disease with BilIN-3 / Caroli's disease

S2552 / 肝腫瘍 / 物部泰昌 (川崎医科大学附属川崎病院病理部) / Mixed adenoneuroendocrine carcinoma / Combined hepatocellular carcinoma and cholangiocellular carcinoma

S2553 / 脾腫瘍 / 石井文彩 (山口大学病理形態学) / Sclerosing angiomatoid nodular transformation / concord

S2554 / 大網腫瘍 / 小田晋輔 (岡山大学免疫病理 / 第一病理) / Gastrointestinal stromal tumor / Malignant mesothelioma

S2555 / 腹腔内腫瘍 / 谷山大樹 (呉医療センター・中国がんセンター病理診断科) / Dedifferentiated liposarcoma / concord

S2556 / 副腎腫瘍 / 沖田千佳 (倉敷中央病院病理診断科) / Pheochromocytoma, VHL-associated / Pheochromocytoma

S2557 / 子宮体部結節状病変 / 中山宏文 (広島鉄道病院臨床検査室) / Atypical leiomyoma / concord  
S2558 / 尿道腫瘍 / 能島舞 (岡山大学腫瘍病理 / 第二病理) / Malignant melanoma / concord  
S2559 / 皮膚腫瘍 / 小林杏奈 (徳島県立中央病院医学教育センター) / Desmoplastic neurotropic malignant melanoma / Malignant melanoma  
S2560 / 皮膚腫瘍 / 谷口恒平 (岡山大学腫瘍病理 / 第二病理) / Trichilemmoma, suspicious of Cowden syndrome / concord  
S2561 / 大腿部筋肉内腫瘍 / 石川典由 (鳥根大学器官病理学) / Lymphatic venous malformation / Intramuscular hemangioma

## B. 開催予定

### 1. 第 117 回学術集会

開催日: 平成 27 年 6 月 27 日 (土)

場所: 鳥取大学医学部臨床講義棟

世話人: 鳥取大学医学部附属病院病理部 堀江 靖先生

## C. 県単位の研究会などの開催報告

### 1. 愛媛病理検討会

日時: 平成 27 年 1 月 24 日 (土)

主催: 愛媛大学医学部病理部

参加者: 25 名

演題数: 9 題

特別講演: 1 題

### 2. 第 371 回高知病理研究会

日時: 平成 26 年 12 月 20 日

世話人: 高知赤十字病院病理診断科部 黒田直人先生

参加者: 12 名

KS1613 / 右乳腺腫瘍 / 高知医療センター病理診断科 岩田純

KS1614 / 左腎腫瘍 / 高知赤十字病院病理診断科部 黒田直人

KS1615 / 副腎腫瘍 / 徳島県立中央病院病理診断科 佐竹宣法

KS1616 / 左腎腫瘍 / 高知赤十字病院病理診断科部 黒田直人

KS1617 / 前立腺腫瘍 / 広島鉄道病院臨床検査室 中山宏文

KS1618 / 大腿骨病変 / 高知大学医学部附属病院病理診断部 井口みつこ

KS1619 / 膝窩部軟部腫瘍 / 高知医療センター病理診断科 松本学

### 3. 第 372 回高知病理研究会

日時: 平成 27 年 1 月 27 日

世話人: 高知大学医学部附属病院病理診断部 戸井慎先生

参加者: 7 名

KS1620 / 舌潰瘍 / 高知大学医学部附属病院病理診断部 吾妻美子

KS1621 / 両側卵巣嚢胞 / 高知赤十字病院病理診断科部 黒田直人

KS1622 / 卵巣腫瘍 / 高知医療センター病理診断科 松本学

## -- 九州・沖縄支部 -----

九州・沖縄支部編集委員 大石 善丈

第 343 回九州・沖縄スライドコンファレンスが下記のように開催されました。

日時: 平成 27 年 1 月 24 日

場所: 佐賀県医療センター好生館病院

世話人: 佐賀県医療センター好生館病院 森 大輔先生

参加人数: 120 名

発表者 / 発表者の所属 / 症例の年齢 / 症例の性別 / 臓器名 / 臨床診断あるいは発表演題名 / 発表者の病理診断 / 討論後の病理診断 / 最多投票診断名

座長: 増田正憲 (佐賀大学診断病理)

1. 三橋泰仁 / 福岡大学病理学 / 66 / 男性 / 耳下腺 / 右耳下腺腫瘍 / warthin tumor+SDC / warthin tumor+SDC / oncocytoma
2. 神尾多喜浩 / 済生会熊本病院 / 20 / 女性 / 気管支 / 気管支腫瘍 / Inflammatory myofibroblastic tumor / Inflammatory myofibroblastic tumor / Inflammatory myofibroblastic tumor

座長: 林 洋子 (長崎大学探索病理)

3. 丸塚浩助 / 県立宮崎病院 / 50 代 / 女性 / 肺動脈 / 右肺動脈腫瘍 / pulmonary artery sarcoma / pulmonary artery sarcoma / pulmonary artery sarcoma
4. 荒金茂樹 / 大分大学診断病理 / 60 代 / 女性 / 肺 / 肺病変 / minute pulmonary meningotheial like nodule with cystic change / lymphangiomyomatosis / minute pulmonary meningotheial like nodule with cystic change

座長: 二村 聡 (福岡大学病理部)

5. 大園慶吾 / 九州大学形態機能病理 / 36 歳 / 女性 / 胃 / 胃粘膜下腫瘍 / Gastrointestinal stromal tumor (SDH 欠失型) / Gastrointestinal stromal tumor / Gastrointestinal stromal tumor (SDH 欠失型)
6. 盛口清香 / 宮崎大学病理診断科 / 80 代 / 男性 / 胃 / 胃粘膜下腫瘍 / Adenocarcinoma arising in gastric inverted hamartomatous polyp or Well diff. adenocarcinoma, gastric type / adenocarcinoma / Neoplastic lesion arising in gastric inverted hamartomatous polyp or Well diff. adenocarcinoma, gastric type

座長: 大石善丈 (九州大学形態機能病理)

7. 野口紘嗣 / 産業医大 2 病理 / 62 歳 / 女性 / 乳腺 / 左乳腺腫瘍 / Metaplastic carcinoma, spindle cell carcinoma / Metaplastic carcinoma / Metaplastic carcinoma, spindle cell carcinoma
  8. 増田正憲 / 佐賀大学診断病理 / 62 歳 / 女性 / 卵巣 / 卵巣腫瘍 / Juvenile granulosa cell tumor / Granulosa cell tumor / Juvenile granulosa cell tumor
- 座長: 蒲池綾子 (大分アルメイダ病院)
9. 渡辺次郎 / 公立八女病院 / 17 / 男性 / 膀胱 / 膀胱腫瘍 / Urothelial papilloma / Urothelial carcinoma, papillary / Urothelial papilloma
  10. 頼田顕辞 / 宮崎大学腫瘍再生病態学 / 68 / 男性 / 尿管 / 尿管病変 / Ureteral pseudodiverticulosis / Diverticulum / Ureteral pseudodiverticulosis
- 座長: 内橋和芳 (佐賀大学病態病理学)

11. 上木 望 / 長崎大学原研病理 / 30 代 / 男性 / 臀部 / 左臀部腫瘍 / Spindle cell, sclerosing rhabdomyosarcoma / Solitary fibrous tumor / Spindle cell, sclerosing rhabdomyosarcoma
12. 石原 明 / 県立延岡病院 / 40 代 / 男性 / 第 4 趾 / 第 4 趾腫瘍 / Subungual (Dupuytren) exostosis / Subungual exostosis / Subungual (Dupuytren) exostosis
13. 北園育美 / 鹿児島大学人体病理学 / 44 / 女性 / 鞍上部 / 鞍上部腫瘍 / Chordoid glioma of the third ventricle / Meningioma / Chordoid glioma of the third ventricle

また会の半ばで学術講演が開催されました

演題 「心筋生検の臨床と病理」

演者 国立国際研究センター病院循環器内科 廣江道昭先生

=====  
病理専門医部会会報は、関連の各種業務委員会の報告、各支部の活動状況、その他交流のための話題や会員の声などで構成しております。皆様からの原稿も受け付けておりますので、日本病理学会事務局付で、E-mailなどで御投稿下さい。病理専門医部会会報編集委員会：村田哲也（委員長）、望月 眞（副委員長）、深澤雄一郎（北海道支部）、長谷川剛（東北支部）、九島巳樹（関東支部）、森谷鈴子（中部支部）、桑江優子（近畿支部）、串田吉生（中国四国支部）、大石善丈（九州沖縄支部）  
=====